

第3次三芳町地域福祉活動計画

ひとりひとりが自分らしく暮らせる地域づくりが、住民のボランティア活動によって進められています。三芳町で楽しく安心して暮らすためには、住民が主体となった活動が大切です。ボランティアへの参加をお待ちしております。 **連絡先:三芳町社協 049-258-0122**

調査からみえてきた地域課題1

高齢者編 食事



- ・一人分のごはんづくりが大変でバランスよく栄養のとれる食事が作れない
 - ・体力や気力がなくなってきてごはんが作れない ・誰かと楽しくごはんが食べたい
- 対策

65歳以上のひとり暮らし高齢者の食事会/コミュニティー型食堂(大人・子ども食堂)の増設

【報告】

再開しつつあった65歳以上のひとり暮らし高齢者の食事会は、コロナの第7波、第8波の感染拡大で、再び休止することもあったが、年間で延べ、1,289名の参加がありました。また、コミュニティー型子ども食堂や地域食堂も、感染予防対策をしながら実施され、人がつながりあうための活動は続けられています。



ひとり暮らし高齢者会食会『けやき並木』(上富)



ひとり暮らし高齢者会食会
『ポピーの会』(藤久保5区・6区)



地域カフェ『まったりマロン』
の学生ボランティア(藤久3区)



地域食堂『北3食堂』

集いの場

- ・安否確認
- ・情報不足
- ・相談相手
- ・男性の孤立



● 対策

ふれあい・いきいきサロン/ラジオ体操/集いの場(集まれ集会所)
男性の集いの場(福祉将棋・囲碁の会)/老人クラブ/自治会活動

【 報告 】

コロナの感染拡大で休止していたサロンや行政区の活動も再開し、新たな集いの場もはじまっています。男性高齢者が集う福祉将棋・囲碁の会はコロナ禍でも休むことなく継続されています。ラジオ体操も町内各地(13か所)でおこなわれています。



ふれあいサロン(みよし台1区)



ラジオ体操(みよし台1区)



地域サロン書道



すみれサロン(北永井3区)

交通

- ・病院に行けない ・買い物に行けない
- ・タクシーは、経済的に頻繁に利用できない
- ・最終バスの時間が早い
- ・高齢による免許返納後の交通手段が心配



● 対策

支え合いによる移送サービス/買い物ツアー/移動販売

【 報 告 】

有償の生活支援サービス『おたがいさまの会』が、上富地区で始まり、支え合いによる移送サービスが、上富地区(おたがい様の会)で始まり自家用車による送迎が 385 件 (R4.4~R5.3)おこなわれました。支えてくれるボランティアの不足が課題となっています。ふれあいセンターの買い物ツアーが 31 回おこなわれ、延べ 165 人が利用しました。また、5 つの店舗が、町内 54 地点で移動販売をおこない高齢者の生活を支えています。



『おたがいさまの会』総会



ふれあいセンター買い物ツアー



移動販売車



生活の困りごと

① ゴミ

- ・分別が難しくできない
- ・収集日に身体的なことが理由で出しに行けない
→ゴミ屋敷化
- ・粗大ゴミが出せない

● 対策

支え合いによるゴミ出し/家の整理

有償(低額)…『友愛サービス』『藤久保2・3区地区社協助け合いの会』

『おたがいさまの会』

無償…『ちょっと助け隊』『藤久保1・4区地区社協ちょっと助け隊』

地域でのゴミ屋敷の整理

粗大ゴミの片づけ(男手提供) 『三芳スケツ』 『ちょっと助け隊』



最近では、ゴミ屋敷を孤立の象徴としてとらえ、地域で解決するべき課題として取り組んでいます。

【 報 告 】(R4.4~R5.3)

ゴミ出し 『友愛サービス』6件 『ちょっと助け隊』13人が利用し延べ76回活動

『藤久保1・4区地区社協ちょっと助け隊』2人利用延べ63回活動

『藤久保2・3区地区社協助け合いの会』2人利用延べ20回活動

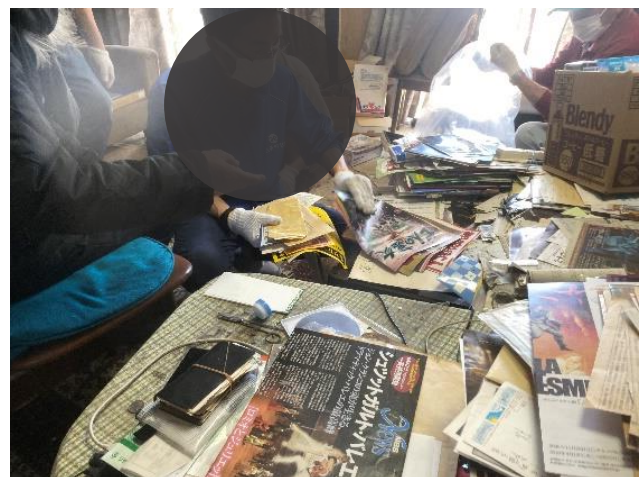
粗大ゴミの片づけ 『三芳スケツ』3件

『藤久保1・4区地区社協ちょっと助け隊』1人延べ2件

ゴミ屋敷の片づけ3件



友愛サービス



ボランティアによる清掃

② 終活

・家の整理 ・不用品の処理 ・死後事務 ・遺言書(資産整理)

● 対策

支え合いによる家の整理

有償(低額)…『友愛サービス』『藤久保2・3区地区社協助け合いの会』『おたがいさまの会』

無償…『ちょっと助け隊』『藤久保1・4地区社協ちょっと助け隊』

資産の整理/遺言書/エンディングノートの作成など



【 報告 】

遺言書の作成方法がわからない、エンディングノートの書き方がわからないなどのニーズもあり、具体的な取り組みの開始が必要となっています。

③ 高齢による体力低下

・力仕事の人手不足 ・ひとり暮らし・高齢夫婦

・家事援助・掃除 ・植木の剪定 ・粗大ゴミの搬出など

● 対策

ラジオ体操やいもっこ体操による体力低下の予防

支え合いによる家の整理・植木の剪定、粗大ゴミの搬出などの男手提供

【 報告 】

コロナ禍でもラジオ体操の実施箇所が13か所となり健康維持のための取り組みが進んでいます。いもっこ体操は12か所中2か所で再開しています。

住民による家事や男手の支え合い活動はおこなわれているが、支え手の不足といった課題があり、多くの方のボランティアへの参加が必要となっています。



ラジオ体操(上富1区)



自転車の修理をする

男手提供ボランティア『三芳スケツト』

- ④ スマートフォンの使い方を教えてほしい（以下スマホ）
 ・スマホ操作を教えてくれる所が歩いていけるとところにほしい

● 対策

スマホ操作や困りごとを相談できる場所を増やす。



【報告】

依然として、スマホの操作に関するニーズは高いが、まだまだ、気軽に相談できる場所が少ない状況があり、取り組みを進めていく必要があります。

ふれあいセンターでの相談実績 1,052 件 (R4.4~R5.3)



『こどもカフェ』 スマホ相談



『ふれあいセンター』 スマホ相談

認知症

- ・認知症の方の在宅生活サポート(ひとり暮らし、介護者問題)

● 対策

認知症サポーターを増やす/認知症カフェの実施



【報告】

チームオレンジメンバー(認知症サポーター)39 人により、認知症カフェ『オレンジカフェみよし』が、131 回(R4.4~R5.3.31)開催されています。認知症カフェ 6 か所の内 4 か所がコロナ禍でも実施されています。



認知症カフェ『オレンジカフェみよし』



けやきの家オンラインを使った『認知症カフェ』

見守り

・安否確認 ・情報不足 ・相談相手

● 対策

福祉新聞/ひとり暮らし高齢者会食会/民生委員・児童委員活動



【 報告 】

コロナ禍でも福祉新聞を渡すことで見守りをおこなう活動が実施されています。(738人延べ 8,817人) ひとり暮らし高齢者会食会は、第7波、第8波で、下期に休止となる地区もあったが、延べ 1,563人の参加がありました。民生委員・児童委員による地域ふれあい会食会が再開された地区(2か所)もあります。民生委員・児童委員によるマスク配布がおこなわれました。

※福祉新聞とは、ボランティアの福祉委員・福祉協力員が、65歳以上のひとり暮らしの方のお宅に訪問し福祉新聞を渡すことで見守る活動。

※ひとり暮らし高齢者会食会では、福祉委員・福祉協力員が、毎月、出欠確認を兼ねて見守りのための連絡をしています。

三芳町では、65歳以上のひとり暮らし高齢者を、福祉新聞を配る福祉委員・福祉協力員、会食会の出欠を確認する福祉委員・福祉協力員、民生委員・児童委員の三者で見守れる体制を構築し活動しています。



福祉委員・福祉協力員の福祉新聞による
高齢者の見守り訪問



ひとり暮らし高齢者会食会『福寿草の会』
(藤久保2区3区)



民生委員・児童委員による
『茶話会』(みよし台1区)

高齢期の低収入と生きがいづくり

- ・低年金化
- ・単身世帯の増加
(収入に必要生活費が占める割合の増加)



● 対 策

共に過ごして、食事をとることで食費や光熱費の節約/就労や有償ボランティア活動への参加による経済活動や生きがいを作ることが必要になっている。

【 報 告 】

高齢者が参加できるコミュニティ型食堂がお弁当配布をおこない会食が再開されつつあります。集いの場での食事の提供が検討されつつあります。
就労の場を得ることによる生きがいを作るためのシルバー人材センターへの登録者が、325人(R5.3末)(男219女106)となっています。

※有償ボランティアとは

交通費やお礼程度の金銭でおこなう支え合い活動で、家事、送迎、学習などがあり退職後の活動として期待されています。また、児童分野では、ひとり親家庭の病気入院中の預かりなど短期里親の活動も期待されています。

※シルバー人材センターとは

高齢者等の雇用の安定に関する法律に定められた、地域毎に設置されている高齢者の自主的な団体で、臨時的・短期的または軽易な業務を、請負・委託の形式で行う法益法人。

調査からみえてきた地域課題2

こども・若者編 こどもの貧困

- ・食事の提供が不安定またはない
- ・児童虐待 ネグレクト
- ・生活体験の格差
- ・母子家庭の貧困
- ・学力格差
- ・社会体験の格差
- ・愛情の格差
- ・外国にルーツを持つこどもの支援



● 対策

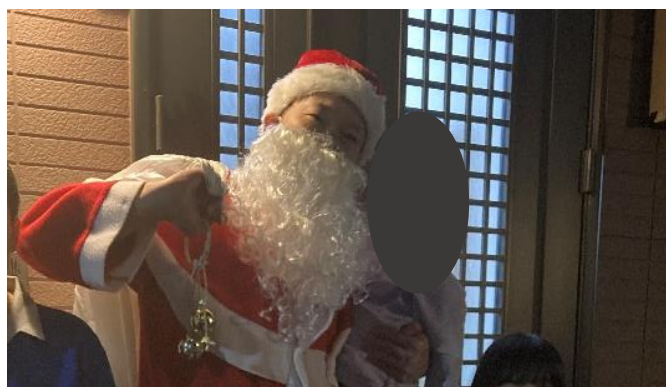
こども食堂/朝ごはん提供/クリスマスプレゼント配布/学習支援/生活支援/社会体験/外国にルーツがあるこどもの支援/ひとり親保護者サロン/こども応援夢基金による個別給付

※ケア型こども食堂(相談及び課題解決機能をもったこども食堂)

※学習支援教室(生活課題解決能力・社会体験能力をつける機能のある無料塾)

【報告】(R4.4~R5.3)

こども食堂 10 か所 朝ごはん提供 8 世帯 29 人延べ 2,370 食、学習支援教室 5 か所 (生活支援、社会体験、外国にルーツがあるこども) 母子家庭サロン 12 回、こども応援夢基金への寄付活動 3,018,854 円(R4.4~R5.3) こども応援夢基金の寄付金により、学用品や体操着などが用意できない児童への個別給付がおこなわれている。3 年ぶりにライオンズクラブと社協のクリスマス会が開催された。



母子家庭などへのクリスマスプレゼント配布



クリスマス会(ライオンズクラブ・社協)



こども食堂『こどもカフェ』



母子家庭サロン『おしゃべりサロン』

不登校

- ・特別支援学級および適応指導教室の小学生は保護者の送迎が必要だが、就労しているひとり親家庭や保護者の疾病などで、送迎が出来ないことから不登校になる児童がいる。
- ・学習支援教室、こども食堂での受け入れをおこない、学習や居場所の提供がおこなわれている。また、ボランティアによる送迎も始まっている。

● 対策

学校への送迎支援/学習支援教室での支援/こども食堂での支援



【 報 告 】

社協の車両を使いボランティアによる不登校児の送迎が開始され、学校復学が可能となるケースがありました。仕事をしている為に、送迎できない特別支援学級に通う母子家庭の児童の送迎を継続的におこない通学を保障しています。食事付き学習支援教室やケア型こども食堂、保護者支援をおこない、世帯の生活全体を支えることが出来ています。4 つの子ども食堂が連携をして、保護者の病気やひきこもりなどで、こども食堂に来ることができない世帯に手作りのお弁当を配達しています。(7 世帯 29 人 延べ 1,628 食)



不登校・特別支援学級への送迎



学習支援教室(第3の居場所)



学習支援教室生活支援



こども食堂 BBQ

調査からみえてきた地域課題3

大人の貧困・ひきこもり編



孤立・困窮

- ・生活困窮者の孤立
- ・自殺が課題になっている
- ・孤立している人の離職率が高い

● 対策

困窮と孤立は相関関係が強く、孤立しない地域づくりが必要になっている。

社会的孤立サロン『アツとホーム』/就労継続サロン『きまぐれ』/歳末援護金※

※年末に行政区を通じておこなわれる歳末助け合い募金で、低所得世帯の方に、年末、年始を温かく過ごしていただくために援護金の配分をおこなっています。

【報告】(R4.4~R5.3)

家族や友人を持たない孤立しがちな方が集まるサロン『アツとホーム』では、ボランティアによる手作りの食事を中心に、孤立しない、させない町づくりがおこなわれています。また、『きまぐれ』では、家族や友人も持たない働く方がご飯を食べながら仕事の話やおしゃべりをし、支え合う環境を作っています。『アツとホーム』には、13人延べ146人、『きまぐれ』には、2人延べ11人が参加して、仲間づくりをしています。



『きまぐれ』



『アツとホーム』

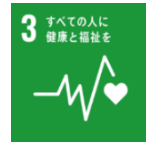


生活困窮者対策検討委員会

※地域住民を含む様々な機関が集まり、連携し新たな社会資源の開発をおこなっています。

ひきこもり

- ・高齢の親の年金で暮らす40代50代のこどもの同居(8050問題)
- ・自殺率が高い



● 対策

- 当事者の居場所/保護者の居場所
- 当事者の就労支援(生活困窮者自立支援総合相談など)

【報告】

コロナ禍でひきこもりに関する支援活動が止まっている。
ひきこもり状態に対する町内企業での就労準備の受け入れが再開し、就労のための準備活動がおこなわれています。

調査からみえてきた地域課題4

世代共通編

孤立・孤独

近所づきあいの減少・世代間交流の減少



● 対策

- 世代交流型ふれあい・いきいきサロン/コミュニティー食堂
- 地域カフェ/集会所集いの場/自治会の活性化/老人会活動の活性化

【報告】

コロナで行き場所がなかった高齢者やこどものための地域カフェがおこなわれ、ふれあい・いきいきサロンやコミュニティー食堂での食事会や行政区活動も再開されつつある。
老人クラブは、コロナで休止されていたが、8地区で再開され、延べ47回の開催された。



大人こども食堂『北3食堂』

流しそうめん



地域カフェ『まったりマロン』

支え合いの活性化・相談先がない

● 対 策

地区社協・地区連絡会の活性化/福祉委員・福祉協力員の増強

※地 区 社 協…三芳町を6つのエリアに分けて、福祉活動をおこなうボランティア組織

※地 区 連 絡 会…地区社協が事務局を担い、行政区連絡会、民生委員・児童委員協議会、育成会、老人会など、地域の組織が集まり、地域課題と解決策を見出すための連携会議

※福 祉 委 員…三芳町社協の委嘱を受けて、福祉活動をおこなう地区社協のボランティア

※福 祉 協 力 員…地区社協に所属し、福祉活動をおこなうボランティア



地区社協定例会(藤久保2区・3区)

【 報 告 】

藤久保5区・6区で地区社協設立の準備が進んでいる。

新聞配達の福祉協力員が増えている地区もあるが、まだ、担い手が足りない状況にあり、多くの住民の参加が必要となっている。

担い手(ボランティア)不足

● 対 策

福祉委員、福祉協力員、ボランティアの増員のための取り組み

家事支援ボランティア/男手ボランティア/送迎ボランティア/若い世代ボランティア

災害ボランティア/地域のボランティアコーディネーター

その他課題解決のための住民ボランティアの参加

【 報 告 】

コロナ禍で、新たにボランティア活動に参加する人は少なかったが、令和4年度は、新規のボランティア希望者も増えてきています。



ワークショップによる地域での活動の創設活動
(藤久保1区4区)



ささえあいみよし『ボランティア講座』

介護

・老々介護 ・ダブル介護 ・ヤングケアラー

● 対策

ケアラー ヤングケアラーの理解/介護者の傾聴
ささえ合いサービス(有償・無償の家事援助サービス)

【 報告 】

社協主催のヤングケアラー支援講座が、オンラインでおこなわれ 78 人の参加視聴がありました。住民やケアマネージャーなどの理解が得られて、ヤングケアラーへの支援が進む第一歩となりました。ヤングケアラーの世帯へのお弁当配布が、こども食堂によりおこなわれています。

※ヤングケアラーとは通学や仕事のかたわら、障害や病気のある親や祖父母、きょうだいなどの介護や世話をしている 18 歳未満の子どもを指す。

調査からみえてきた地域課題5

障がい者・障がい児編

親亡き後

● 対策

障がい者及びその親の高齢化や親亡き後の心配があります。在宅生活の増加など公的な制度だけでは支えることができないといった課題があります。現在、対策を見出すことは難しいが、安心して社会に託していくための検討が必要となっています。



制度外のボランティア・居場所

● 対策

交流の場、学習の場、居場所、余暇支援/ささえ合いサービス(有償・無償の家事援助)

【 報告 】

障がい児の余暇支援活動は、こころの距離が離れないように、コロナ感染に留意した形で回数を減らしながら実施しています。

※ぎふと 特別支援学校及び特別支援学級に通う児童と中学生から25歳までの若者の交流の場

※A ぎふと 大人になったぎふとの卒業生たちの交流の場

※みらいくん 障がい児の交流の場

※あっぷるぱい 障がい児の保護者の学習の場

※音楽療法 音楽を通じた障がい児の成長と交流の場

※医療的ケア児ママケア 医療的ケアを必要とするこどもの会

※ひとみ 視覚障がい者の会



障がい児余暇支援事業『ぎふと』ハンバーガーデリバリー

情報保障

・障がいに応じた固有の方法による情報提供が必要

● 対策

朗読ボランティア/点訳ボランティア/要約筆記

【 報 告 】

朗読ボランティアにより広報の録音がおこなわれ、視覚障がい者や高齢者への情報提供がおこなわれています。また、点訳ボランティアにより広報及び健康カレンダー、ゴミカレンダーの点訳、点字図書館からの依頼で点字図書の作成がおこなわれています。



広報吹込み中の
朗読ボランティア『けやき』



調査からみえてきた地域課題6

多文化共生社会編

多文化への理解不足

- ・外国文化の理解
- ・共生文化が醸成されていない
- ・LGBTQ(性的マイノリティー)への理解

● 対策

多文化を学ぶ/外国人との文化交流
外国にルーツを持つこどもの学習支援
学校での日本語指導



※LGBTQ とは、性的少数(セクシャルマイノリティー)の人たちの総称、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クエスチョニングの頭文字からなります。

【報告】(R4.4~R4.9)

外国にルーツを持つこどもの学習支援をおこなう NPO が、料理やスポーツ活動などの社会体験を提供している。また、学校へ出向いての日本語指導760時間もおこなわれています。

外国人によるカフェ(3回)や留学生の訪問授業(3回)もおこなわれ、多文化理解を進めるための交流が進んできています。



外国にルーツを持つこども社会体験 料理の広場



新 留学生の学習支援教室での講話(韓国)



新 外国人による多文化カフェ



新 留学生の学習支援教室での講話(ベトナム)

調査からみえてきた地域課題7

共に生きる力の醸成編



福祉教育

核家族化や兄弟数の減少などから、多様な人と関わることによる生きる力の醸成が必要
自らが、自分自身の状況をとらえ、健康に生きるための学びの場が減少している。

● 対策

- 福祉教育の授業(全校を福祉教育指定校に認定)
- 福祉教育マニュアルの作成/福祉大学/福祉まつり

【 報 告 】

学校での福祉教育の授業(9回)が実施と福祉教育マニュアルの作成がおこなわれました。福祉大学(3回)が、実施され、ユーチューブ再生回数 326回、放映会参加者延べ20人の参加があり、福祉教育(自らを幸福にするための力を醸成する取り組み)が、住民によりおこなわれている。



上手な話しの聞き方(竹間沢小 4年生)



視覚障がい者体験(三芳中1年生)



福祉大学での不登校の講義
(オンラインと録画の放映)



第3次三芳町地域福祉活動計画



みよしSDGs

発行：三芳町地域福祉活動計画策定委員会

事務局 三芳町社会福祉協議会

TEL 049-258-0122

FAX 049-258-0180